

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372401135		
法人名	有限会社 ふれあい松川		
事業所名	なごみの園・菊水		
所在地	玉名郡和水町長小田334番地		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日	平成31年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成31年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景の穏やかな空間に立地する平屋建て、施設敷地内には農園を作っており、新鮮な野菜を収穫し、その日の食材として食事に提供している、近所の方が畑を耕してくれたり栽培方法等を教えて頂きながら、入居者様との交流も行っている。又、小学校が隣にある事で、小学校との交流もあり皆様大変喜ばれています、施設周辺は田んぼや自然が多く、四季折々の花や田畑の風景が変わるので散歩の時に季節を感じることが出来ます。併設しているデイサービス 有料老人ホームの方々との交流も行っています。本人様 ご家族に安心していただける様に支援するとともに、本人の自由意思に基づき 日課にとらわれない生活支援に努め 楽しく 穏やかに過ごして頂けるような支援が出来る様に心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設からの経年により96歳を最高齢として、臥床中心という入居者もおられる中で、「ホームで最期までお願いしたい」とする家族の思いに真摯に取り組み、常に職員の気づき(頻繁に入室)とともに音楽やグリーンカーテン等耳や眼で楽しい工夫を行うなど家族に安心していただけるケアを実践している。有料老人ホームやデイサービスとの相互交流や、隣接する小学校及び中学生のワークキャンプ受け入れによる交流等とともに、遠くまでの外出がままならない現状にあっても外でのお茶会や近隣住民との歓談等“今”を視点にした日常生活である。入居者同士の仲の良い関係も見られ、“なごみグラウンド杯”は地域住民から心待ちにされる等、法人として地域に根差した活動に取り組まれており、この地の福祉を担うとする基盤が確立している。家族とのコミュニケーションを常日頃から図られており、高齢化・重度化する入居者の穏やかな日常が支援されるであろうと大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づきその人の思い意思ペースに合わせて地域の方との交流も行い、穏やかな雰囲気作りに心がけ、職員が理念の共有を出来るように毎朝職場の教養を読み 理念の唱和を行い実践している。	開設時からの理念を継続し、出来る限り個々の状態や本人の希望、家族の思いに寄り添うよう支援している。入居者の生活が穏やかに、“出来ることは、その時に”を共有し楽しんで頂くこととしている。ホーム長は、業務の合間を見ながら理念に即した事案を取り上げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣にコスモス畑 花が咲く畑等があり季節ごとに四季折々の花を見る事が出来、野菜果物を頂いたりして食材として利用している又農園を耕していただいたり栽培方法を教えていただいたりして日ごろより交流をしている。	小学校に隣接という立地条件のなかで、地産地消や、野菜作りでの近隣州民の協力、野菜のおすそ分け、散歩時の歓談等昔ながらの地域との関係を築いている。小学校での“なごみ杯グラウンド大会”の開催は地域住民も心待ちにされ、児童のマラソン大会応援や、子どもたちによるもぐら叩きでの訪問、中学生の職場体験やワークキャンプ等年齢に関わらず交流する機会があり、ホームも地域の一員として町内化に加入している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	役場 社協等よりの情報をその都度ニーズに応じて認知症 介護全般 施設情報等を発信し地域の方のニーズ 不安軽減 役場への橋渡しを行っている。施設見学も随時受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2か月開催 家族 老人会 民生委員 区長 役場 社協 他事業所の方に参加して頂き、活動状況報告 今後の活動計画を報告して、その都度ご意見を頂いている。それを職員間で話し合っている。身体拘束廃止に、向けての取り組みについて話をしている。	充実したメンバー構成により定期的に開催する運営推進会議は、年に1回は食事会を兼ねる等創意工夫している。AEDの設置についての説明等地域に向けた情報の発信の場や、全家族に参加を呼びかけたり、入居者の様子を見ながらの進行は、認知症ケア啓発の一環に繋げている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加して頂いている、その時に、制度改正 介護保険情報 地域の動向行事 施設からの相談事項等意見交換を行っている。	運営推進会議時の情報交換とともに、地震対応等を話し合い今後の対策としている。介護保険認定更新時の立ち合いによる情報交換や、地域包括支援センターや社会福祉協議会との情報交換等協力関係を築いている。また、法人として玉名市の知名度アップに貢献している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会及び職員研修にて身体拘束についての認識を高め 身体拘束防止に取り組んでいる。	外部研修やホーム内研修により意識を強化させている。また、運営推進会議の中で身体拘束廃止委員会等の状況を報告し、日々のケースを精査し適正化に努めるとしている。人感センサーは家族の同意の下使用し、入居者の帰宅願望や外出傾向に職員が見守り確認し、声かけなど抑制しないよう職員同士も注意喚起している。	車椅子利用が多く、食後等ソファへ移乗し休息される姿もあり、今後も少しの時間でも車いすから移乗されることを望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待への理解を深め、全職員虐待防止へ努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会をおこなうなどして理解を深め、入居者様の必要性の有無も考えながら行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分時間を要し、納得して頂くまで説明を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会 運営推進会議 の際に現状報告し、意見 要望をお聞きしそれを職員間で話し合い、今後の介護に反映出来るようにしている。	玄関の意見箱や、家族には何かあれば申し出て欲しいと依頼しコミュニケーションを図り、訪問の遠く家族には随時電話にて近況を報告しながら意向等を聞き取りしている。入居者の帰る機会がないのではとする思いの実現に向け家屋を調査し支援して事例等家族から感謝の言葉が聞かれている。	日頃から家族とのコミュニケーションが図られ、写真をDVDとして渡されたケース等家族とのかかわりの深さが表れている。家族からの感謝の言葉等良し悪しに関わらず記録として残して頂きたい。特に良い事案は全職員が共有することでモチベーションとして反映されるものと期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の定例会にて意見を聞く場を設けている。代表者は施設を巡回し意見を聞いている。又代表者と管理者等は月2回の会議を通して意見交換を行っている。	月1回の定例会議、月2回のホーム長会議等により意見交換を行っている。入居者のケアについては職員同士がその都度話し合う等意思疎通の良さが表れている。代表もホームに頻繁に訪れ、入居者の状況や職員とのコミュニケーションを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に2回の代表者と責任者の会議にて勤務状況を報告しており、年に一回は職員個人の実績を考慮して功労者を表彰している。必要に応じて面談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、出来るだけ参加するようにしている。内部研修も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉名郡市GH連絡協議会の集まりや、他のGHの運営推進会議に参加し、そこで交流情報交換 意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉に耳を傾け、表情や行動を観察し、心に秘めている気持ちを見いだせるように心掛けている。又家族 関係機関よりの情報収集にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩み、戸惑い不安をしっかりと聞いて受け止め、要望に応えられるサービスが提供できるように支援しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく聞くことに心がけ、本人 家族が何を、必要としているか、何を望んでおられるかを捉え園でのサービス インフォーマル サービス等を活用し、本人 家族が求められるサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩であり、郷土料理風習等 今までの経験などを尋ねて、それを共に生活に役立てている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回本人さんの状況報告を郵送にて行っている。家族の面会を大切にして、誕生日会などに一緒に参加して頂き、共にお祝いしている。面会時等に写真を撮り思い出づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域ボランティアの方々の訪問や親戚の馴染みの方々の面会があっている。入所されてできた馴染みの場所には定期的に散歩など行っている。	自宅に帰ることを楽しみとされる入居者にはホームで帰省を支援したり、生活環境を整え(ホームで支援)自宅での外泊を可能としたり、老人会からの訪問、入居者同士や職員との関係(顔なじみ等)、馴染みの美容室からの訪問美容等これまでの関係性の継続を支援している。散歩時にはご近所の皆さんとの歓談等も馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物のたたみ お盆拭きをしたりして、支え助け合い、又体操 レクリエーション・ドライブ・散歩・ソファでの語らい等楽しく過ごせる時間を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族との交流も継続してあり近況を聞いたりしている、又来園されることもありお話を聞くこともあり。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の言葉の中から、本人の思いや要望を把握し、出来るだけ本人の希望に添えるように努力している。	職員は日々の関わりの中で入居者に意向を聞き対応するとしているが、希望などもあまり出されない状況にある。発語困難や意思疎通も難しい状況もある中で、入居者の表情等を確認しながらケアに取り組み、家族の意向を聞き取りケアに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人 家族 他事業所等より 生活歴 性格 環境・仕事等を理解した上で、その方の介護に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録に日々の出来事や変化を記録し、全スタッフが情報共有し把握できるようにに努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族より意見を聞いて、職員間では1回／月の定例会で意見交換を行い、チームで支える介護計画に繋げている。必要時は、担当者会議を開いているが、回数は少ない。	入居者の思いをプランに上げ、ケアカンファレンスを組み入れた毎月の会議で話し合う等職員の気づき等をケアに反映させている。毎月のモニタリングによりサービス担当者会議の必要性を見極めるとともに、半年毎の見直しや退院による見直し時個々のニーズや家族の意向、及び主治医・看護職員・ホーム長等との話し合い等により現状に即したプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個々の状況を記録し、それを読むことで皆が把握でき、情報共有して介護計画に繋げるように努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の面会が仕事終わりで遅くなってしまい時間であっても面会できるようにしている、又一時帰宅 外泊時に送迎サービス 自費によるレンタルサービスの活用等 介護指導 必要なニーズに応じたサービスを行っている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で、社会福祉協議会・民生委員 区長 老人会などと意見交換を行い、様々な情報を提供して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し、かかりつけ医を選び定期的な訪問診療 定期受診 特変時の対応に連携 支援を行っている。	入居時にかかりつけ医を確認し、訪問診療のできる協力医療機関がある事等詳細に説明している。受診は家族の対応を基本としているが、ホームでも柔軟に対応し、結果や健康状態を共有している。更に、家族会の中で産業医による講演が予定されている。口腔ケアとして、食後の歯磨きや義歯の管理に努め、歯科医による訪問診療や受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日 に訪問看護に来ていただいている、日々の健康相談 医療相談 主治医との連携急変時対応をして頂いている。園看護師により日々の健康管理 服薬管理 訪問看護師との密な連携をとり支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人が安心して治療専念して頂け、又家族が不安にならないように職員が面会したり家族の不安軽減に努めたりしている。早期退院が出来るように先生 看護師 相談員等情報交換を密にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて説明を行い、家族の意向を聞き、事前指定書に記入してもらっている。	入居時に看取りケアを説明し、入居者の心身の状態により方向性や支援について説明を行い同意書を交わしている。ホームは日頃から家族に状況小まめに報告することを大切にしており、その時々で気になる点や不安な事などを確認している。代表者は、重度化や看取り支援に関わる職員のメンタル面については、今後も十分に配慮することや、普段から家族とホームの信頼関係を大切に支援に努めたいとしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より急変時の対応について話しているが、すべての職員が緊急時の対応身についていないのが現状、急変時等には、応援体制が取れるように体制づくりはしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回／年消防避難訓練を実施している。消防署の方より避難訓練 消火訓練等を行い指導して頂いている。災害時には近隣の応援を頂けるようお願いしている。	同敷地内にある事業所合同で年2回、消防署協力の下訓練を実施している。また、セキュリティー会社による定期点検や、コンセントの埃を含め安全チェックにより意識を強化させている。備蓄は食料と、緊急時持ち出し袋、ヘルメットを目に付く場所に掛けている。運営推進会の中で、1月に発生した地震時の対応について参加者（行政や社協）より、当時の状況報告の後、意見交換を行っている。	熊本地震や、先般の地震発生では、ホームでは大きな被害は無かったものの、緊急時避難について、あらためて考える機会となったようである。予定されていた初詣も地震の影響で本年は注視し、緊急時避難場所としてホームも提供できることを周知している。今後も、自然災害について机上を含め、意見を出し合う機会を引き続き持たれることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報情報は目的に応じて、本人 家族に了承得て使用している。入居者の方に対しては一人ひとりを尊重する言葉を使うと共に対応にも本人の意思を尊重している。	代表者は機会あるごとに、入居者に感謝の念を持ち接することや、目線に合わせた対応などについて指導している。呼称は苗字を基本としているが、同姓の場合は下の名前でも対応している。入浴時の同姓介助の希望には、職員を交代し支援している。職員間の声のトーンは、気になる場面もあり、今後も課題として取り組みたいとしている。	居室へ入る際は在室の有無に関わらず、ノックや了解の後入ることが必要と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や願いが聞き出せるような雰囲気づくり話しかけを行い 答えが出やすいよう努めている。表情 全身の反応も見逃さないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状況に合わせ、希望を尊重し日々を過ごせるように対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服の選択や鏡の前にヘアーブラシを置いたりして身だしなみを整えたりできるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる時には食べたいものを聞いたり、農園へ収穫と一緒にに行ったり お盆拭きをしたりしている。	献立は入居者の好みも聞きながら作成し、専任者を中心に職員が調理を行っている。食材は地域の商店からの配達を利用したり、法人菜園(なごみ農園)の野菜も活用されている。誕生祝いの鯛の塩焼き、正月にはおせちと甘酒で祝うなど、行事食に工夫している。昨夏はソーメン流しやファミリーレストランでかき氷を楽しむ機会も持っている。入居者が普段の調理に関わる機会は殆どないが、野菜の収穫やお盆拭きなど、できる事で食への関わりを支援している。	職員も入居者と一緒に、見守りや介助を行いながら同じものを摂ることで思いを共有している。車いす利用者が殆どであるが、テーブルの高低が適切でない方も見られ、職員の工夫が期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定を行い体重管理を行っているその人により 切り方 摂取量等を考慮し提供している。又水分摂取については定期的に補水を行い嗜好によりお茶 コーヒー ポカリ等での提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいを行っている、ブラッシング等については出来る方は、本人が行い必要に応じて介助を行い清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、失敗にならないように時間を見て誘導を行っている。トイレでの排泄に努めている。	個々の排泄パターンを共有し、声掛けや誘導などにより失敗の無い支援に努めている。昼間はトイレでの排泄を基本とし、夜間のみポータブルトイレの使用や昼・夜、排泄用品の使い分けなど個々に応じている。夜間は睡眠もとれるような、排泄交換を検討している。トイレは2か所設置され、入居者は居室の近くが安心されることから、職員は慣れた場所へ誘導している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便をチェックを行い、できるだけ自然排便を促すよう 食物繊維の多い食品等の提供したり、水分補給 トイレでの排泄を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望にできるだけ添えるように応じているが、午後より夜間においては行っていない。体調不良の方などは、清拭 手 足浴にて対応を行っている。	入浴は週2回、午前中を中心に入居者の希望に応じて支援している。入浴拒否の方や病状などにも配慮し、週1回の支援の場合は清拭などを取り入れながら清潔保持に努めている。冬場は苦手な方も多くなり、職員は特に声掛けを工夫し間隔が空かないようにしている。入浴剤の使用や、柚子湯は全員が入ってもらえるよう数日間実施している。また、湯船に浸かれる方も少ないことから、冬場は浴室の温度やかけ湯など湯冷めの無いよう注意を払い、就寝時は必要に応じ湯たんぽを準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望により、ソファにて休息したり居室にて昼寝をしたりしている。冬場寒がりの方には湯たんぽを入れたりし良眠できる環境をつくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は園看護師が行っている、薬の目的副作用については全職員が理解するように努めている。又は主治医 訪問看護師との連携をとり状態変化に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活習慣・趣味を活かし、野菜の収穫・季節行事等今までの生活経験を活かし、共に昔を懐かしみながら、楽しみを見いだして支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日には園周辺へ散歩に出かけ近所の方と会話をしたり、又車で 花等で季節を感じられる様に出掛けている。家族の方との外出が出来る様に支援している。	入居者の心身状況や車酔いなどから全員での外出は困難であるが、気候の良い時期は庭先など外で過ごしている。。また、併設のデイサービスにボランティアの訪問がある時は、ホームの入居者も出かけている。家族は、受診や自宅への日帰り帰省の他、外泊の際は職員が事前に家屋を確認し、簡易ベッドを拵える等安全に過ごしてもらえよう尽力している。	代表者や管理者は、出来る限りは外出を支援する意向であり、今後も企画される外出に家族にも呼び掛けていただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人の方は自己管理されている、他の方はご家族よりお金をお預かりし、出納長をつくり職員が管理している、散髪 日常品の買い物等に使用させていただき、面会時に出納帳の確認をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば電話対応している。遠方よりの電話には、本人と話せるように心がけている。年賀状への書き添えを本人にお願いするが難しく職員が代筆にて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関 リビングには季節の花 行事的掲示物を飾ったりしている。日付も解りやすいように張っている。お風呂は、ゆず風呂に入ってもらったりもしている。	玄関先のプランターに花苗を植えたり、ホーム内には草花を飾ることで季節を感じてもらえるようにしている。また、玄関横のグリーンカーテンでは、夏野菜を育てたり、冬場はイルミネーションを飾るなど、季節に応じて活用されている。廊下にはおせちを囲んだ正月の様子や、もぐらうち見学など直近のイベント時の写真が、日常の生活として表われている。食事や、レクレーションなど活動の場であるリビング食堂は、入居者の表情や顔色を見て温度調整を行い、居心地よく過ごせるように努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置いてゆっくりとくつろげるようにしている。本人の自由意思により過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人馴染のものを置いたり、写真を貼ったりして家族のぬくもりが感じられえようにしている又他の方に気兼ねなく過ごしたり、本人が居心地よく過ごせるように努めている。	各居室入り口に、担当者名を掲示し、責任ある、居室環境に努めている。家族や思い出深い写真の掲示、多くのぬいぐるみやテレビ等が持ち込まれ、天気の良い日は換気の徹底や、臭気等に気を配っている。居室での生活が中心になられた方には、特に加湿器により温湿度を管理する他、ラジオを流したり、扉を少し開け他の入居者の声が聞こえるよう配慮している。衣替えや季節外の寝具の管理などは、家族に依頼しているが、持ち帰りをされる方は少なく、居室での保管が中心のようである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る事 わかる事を職員が把握して見守る事を大事にしている。居室・浴室・トイレ等表示して解りやすく安全に利用出来る様に努めて、自立した生活が送れるように工夫している。		